

比丘の戒律・パーティモツカ前文

PUBBAKICCAM





布薩堂



布薩堂の屋根にかかる満月



パーティモッカを誦経する比丘

Tatrāyamādi bhavati idha paññassa bhikkuno

Indriyagutti santuṭṭi pātimokkhe ca saṃvaro.

感官を制御し、小欲知足であり、パーティモッカにおいて
防御している。

これが、「法」と「律」における智慧ある比丘の、
最初に為すべき事柄である

小部經典 / ダンマパダ / 375



布薩の日は定められているが、場所については僧院内の布薩堂とされている建物だけではなく、布薩のための結界が為されている場所ならば、屋外や比丘、長老の僧房でも布薩を行うことは可能である。

その場所で為されるパーティモッカ二二七条の誦経の前にサンガの成員によって行われる準備作業が PUNNAKICCAM といわれるもので、これには布薩堂の清掃をはじめ、座具や飲料水、洗足水の用意をするということがあり、また、布薩は同一結界内に共住する比丘全員の出席が原則であるため、病気で参加できない比丘が戒律を犯していないかを確認し、会議に関しての委任を取り付ける必要もある。

二二七条の戒律の違反行為は重罪と軽罪に分けられるが、軽罪は自己の誤った行いを自覚し、他比丘に告げる(告罪)ことで解消されるので、パーティモッカの誦経が為される前に布薩堂内に於いて行われている。この事は PUNNAKICCAM の内容にはなっていないが、タイ国比丘サンガの大部分の僧院ではそれが通例となっている。

一段高い座所に座るパーティモッカ誦経師は、当日が月齢で何日であり、集合している比丘が何名であり、そして、現前している比丘サンガは清浄で、すでにパーティモッカの準備が整ったことを告げる。

それを受け、比丘サンガの長老は次の言辞を述べる。

「事前行動と事前行事を為し終えて、着座しているこの比丘サンガの承認によって、パーティモッカを説示することを、私は請願します」

パーティモッカ誦経師は比丘サンガからの請願を受け、この PUNNAKICCAM に続いて、序言 (nidāna)、そして比丘パーティモッカ (bhikkupātimokkham) 二二七戒経の説戒を開始する。

PUBBAKICCAM

Uposathakaraṇato pubbe navavidhaṃ pubbakiccaṃ
kātabbaṃ hoti:

- 1, Taṇṭhānasammajjanañ ca ;
- 2, tattha padīpujjaḷanañ ca ;
- 3, āsanapañṅapanañ ca ;
- 4, pāṇiyaparibhojanīyūpaṭṭhapanañ ca ;
- 5, chandārahaṇaṃ bhikkhūnaṃ chandāharaṇañ ca ;
- 6, tesa tesañṅeva akatuposathānaṃ pārisuddhiyāpi āharaṇañ ca ;
- 7, utukkhānañ ca ;
- 8, bhikkhugaṇaṇā ca ;
- 9, bhikkhunīnamovādo cā 'ti.

Tattha purimesu catūsu kiccesu padīpakiccaṃ idāṇi
suriyalokassa atthitāya natthi.

Aparāni tīṇi bhikkhūnaṃ vattaṃ jānaṇtehi bhikkhūhi
katāni pariniṭṭhitāni honti.

Chandāharaṇa pārisuddhi āharaṇāni pana imissaṃ sīmāyaṃ
hatthapāsaṃ vijahitvā nisinnānaṃ bhikkhūnaṃ abhāvato natthi.

Utukkhānaṃ nāma ettakaṃ atikkantaṃ ettakaṃ avasiṭṭhanti
evaṃ utu-ācikkhanaṃ ;

事 前 行 事

布薩を為す前に、九種の為すべき事前行事があります。

1. その場所の清掃を行う事
2. 燈明を灯す事
3. 座所を設ける事
4. 飲用水、使用水の用意をする事
5. 志欲の条件にかなった比丘の志欲を伝言する事
6. その同じ比丘達のうちで、布薩に参加しない者達の清浄を伝言する事
7. 季節を告げる事
8. 比丘の人数を数える事
9. 比丘尼を教誡する事、です。

そのうち、最初の四行事に於いては、日照（点灯）の義務はなく、続く三行事は比丘の務めを知る比丘衆が行なっても、正しく完了したことになります。

しかし、この界の中には、一手の間隔以上に離れて坐る比丘はいないので、「志欲」と「清浄」を伝言する者はいません。

季節を告げる」とは、[布薩の回数が] これだけ過ぎ、これだけ残っていると、この如くにして時節を告知することです。

Utūnīdha pana sāsane hemanta-gimha-vassānānaṃ vasena
tīṇi honti.

Ayaṃ hemantotu asmiñ ca utumhi aṭṭha uposathā. iminā
pakkhena, eko uposatho sampatto. satta uposathā avasiṭṭhā
Iti evaṃ sabbehi āyasmantehi utukkhānaṃ dhāretabbaṃ.

Bhikkhugaṇanā nāma imasmiṃ uposathagge uposathatthāya
sannipatitā bhikkhū ettakāti bhikkhūnaṃ gaṇanā,
Imasmiṃ pana uposathagge cattāro bhikkhū sannipatitā honti,
Iti sabbehi āyasmantehi bhikkhugaṇanāpi dhāretabbā.

Bhikkhunīnaṃ ovādo pana idāni tāsāṃ natthitāya natthi.

Iti sakaraṇokāsānaṃ pubbakiccānaṃ katattā nikkaraṇokāsānaṃ
pubbakiccānaṃ pakatiyā pariniṭṭhitattā evantaṃ
navavidhaṃ pubbakiccaṃ pariniṭṭhitaṃ hoti.

Niṭṭhite ca pubbakicce.

Sace so divaso cātuddasī-pañṇarasī-sāmaggīnamaññataro
yathājja uposatho pañṇaraso,

この教説においては、寒季、暑季、雨季という三つの季節があります。

「今は寒季であり、この季節において布薩は八回で、この半月によって一度の布薩に至り、七つの布薩が残っています。」と、この様に、皆さん方全員によって季節の告知が確認されねばなりません。

「比丘の人数を数えること」とは、「この布薩堂に布薩のために集合した比丘が、これこれの数である」という、比丘達の計数です。
「この布薩堂には四人の比丘が集まっている」と [たとえば] この如くに、皆さん方全員によって「比丘の人数を数えること」もまた確認されねばなりません。

比丘尼への教誡は、現在、比丘尼が存在しないので行ないません。

この如くにして、実行可能な事前行事は為され、実行不可能な事前行事は、もともと完了してしまっているのです、以上をもって、九種類の事前行事は完了したことになります。

ここに事前行事は終了しました。

もし、その日が、半月の十四日目か十五日目か、あるいは和合 [布薩] のいずれかの日であるなら、「本日は十五日の布薩です」というように [告げなさい]。

I, yāvatika ca bhikkhū kammappattā saṅghuposathārahā
cattāro vā tato vā atirekā pakatattā pārājikaṃ anāpanā
saṅghena vā anukkhittā,

II, te ca kho hatthapāsaṃ avijahitvā ekasīmāyaṃ ṭhitā,

III, tesaṃ ca vikālabhojanādivasena vatthusabhāgāpattiyo ce
na vijjanti,

IV, tesaṃ ca hatthapāse hatthapāsato bahikaraṇavasena
vajjetabbo koci vajjanīyapuggalo ce natthi, —

Evantaṃ uposathakammaṃ imehi catūhi lakkhaṇehi
saṅgahitaṃ pattakallaṃ nāma hoti, kātumaṃ yuttarūpaṃ.

Uposathakammasa pattakallattaṃ viditvā idāni kariyamāno
uposatho saṅghena anumānetabbo.

I, 羯磨に参加する資格があり、サンガによる布薩にふさわしい、
四名、あるいはそれ以上の者たちで、行い正しく、パーラー
ジカを犯しておらず、あるいはサンガによって排除されていな
い、そういう比丘達が、

II, 一手の間隔をあけずに、一つの界の中にあり、

III, そして、もし彼等に、非時における食事等に関する事同分の罪
がなく、

IV, そして、もし彼等の中に、一手の間隔 [以内に座るべき集会に]
於いて、一手の間隔以上に遠ざけられるべき忌避者が誰もい
ないならば-

以上の如く、これら四つの相をそなえた布薩羯磨が、正しくまと
められた「適時の到来」というものであり、行なうにふさわしいも
のであります。

布薩羯磨のための適時が到来したと知って、次に、行なわれるべ
き布薩がサンガによって承認されねばなりません。

— 『比丘パーティモッカニ二七戒経』 p.6-p.11 時刻、及び、季節の告知のパーリ文、和訳文は
音声ファイルに順じて変更した。

— p.2 布薩堂の写真(上二枚)提供者は、花園大学非常勤講師、佐々木日嘉里氏

— p.3 のダンマパダ / 375 の偈文は、タイ語版三蔵・小部經典からの和訳文。